

職場紹介： 太陽工業株式会社 土木エンジニアリング事業部

エンジニアリング技術部 榎尾孝之

1.はじめに

「太陽工業さんといえばテント屋の太陽さんね」とよく言われます。

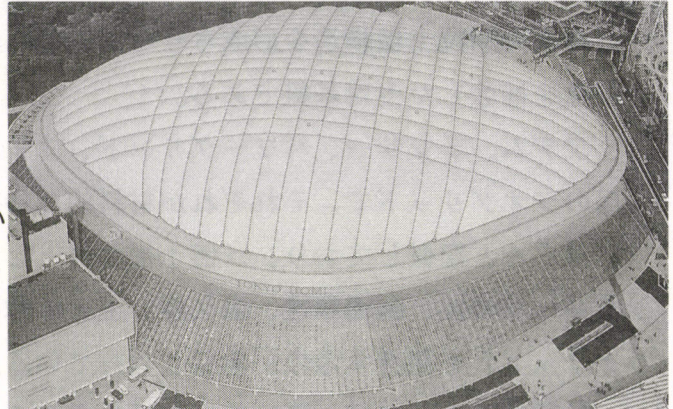
私の勤務先はテント屋の太陽工業です。しかしながら私の職場は「土木」なのです。

弊社は「東京ドーム」の屋根材に代表される大型膜面構造物の設計・製造・施工を主軸とし“膜面”を創業の原点として生活と産業に貢献できる価値創造を追求してきました。

これまで弊社のなかで土木関連事業部門は“膜”という素材の土木分野における価値を創造する部門としての位置付けがなされていました。

平成5年1月より弊社は、新しい企業理念とコーポレートブランド“MakMax”を導入することによりハードとしての“膜”を越える新しい価値の創造を通して人々のニーズや時代の要請に応え、より个性的で社会のお役に立つ企業となることを目指しております。

土木関連事業部はこれを受けて従来から製造販売してきたジオテキスタイル、ジオメンブレンの他にEPSや排水材料などの新しい素材を加え、“土木エンジニアリング事業部”と新たな名のもとに“ジオシステックス”の価値をエンジニアリングする部門として位置付けられています。



東京ドーム 設計/日建設計・竹中工務店、施工/竹中工務店

地 空 創 造 企 業
MakMax

コーポレートブランド“MakMax”

2.土木エンジニアリング事業部技術部門

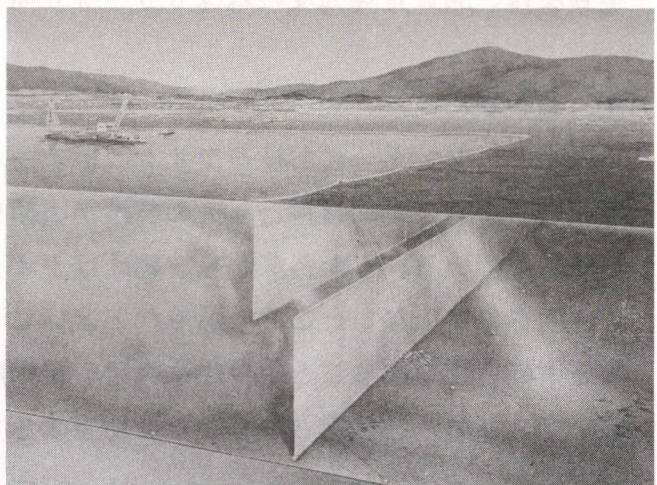
土木工事は海洋土木関連工事と陸上土木関連工事に大別することができます。

海洋土木関連工事用の土木資材として海洋や河川での浚渫工事で発生する汚濁の拡散を物理的に防止する“海洋汚濁防止膜”の設計を行っています。

近年では関西国際空港建設工事や東京湾横断道路建設工事に代表されるように大規模かつ大水深の工事が増加しているなかでこれらの工事が環境に与える影響は大きくなってきています。

弊社技術部門では“海洋汚濁防止膜”本体の設計の他に汚濁防止効果のシミュレーションなどの検討もエンジニアリングとして取り組んでいます。

“海洋汚濁防止膜”はジオテキスタイルを利用した膜面構造物であるため無公害の対策工であり、自然環境を守るためには今後も必要不可欠なものとして



海洋汚濁防止膜

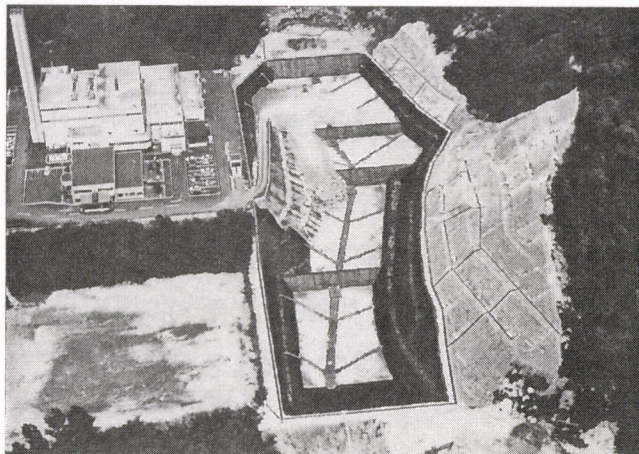
多くの工事で用いられるものと思われます。

陸上土木関連工事用の土木資材として廃棄物最終処分場のしゃ水工に使用するジオメンブレンの設計を行っています。

環境問題が取り沙汰される昨今、廃棄物最終処分場しゃ水工の構造や浸出水が生じた場合の検知方法の有り方は世間から注目を浴びる分野となっております。

弊社の技術部門では廃棄物最終処分場しゃ水工のもつべき構造や施工方法と浸出水に対する検知方法を一貫したシステムとして企画立案し施工する体制づくりに取り組んでいます。

その他軽量盛土材として知られるEPSを使用した構造物の設計など“膜”を越えた素材を土木の分野に取り入れる仕事を行っています。



廃棄物最終処分場

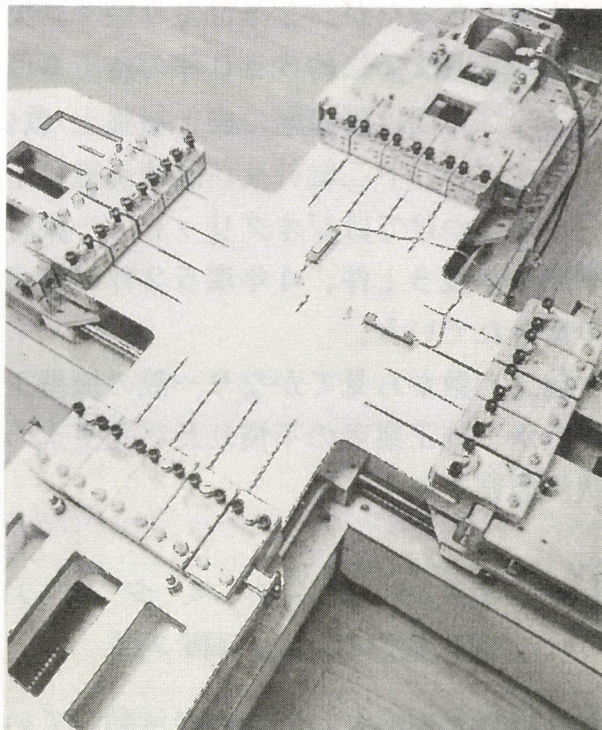
3.基礎研究部門

“膜”素材に関する基礎的な研究は空間技術研究所で行っています。

空間技術研究所には素材の検証を行う試験機が設置されており、日常の現場で生じた膜材料の性能試験だけに限らず“膜”素材の基礎的な研究を行っています。

施工中あるいは施工後に風や雪によって生じる膜面の変化に伴い発生する膜面張力の変化を把握することは非常にむづかしいため、空間技術研究所ではこれらの把握を可能にする測定機の開発や測定方法の提案などを行っています。

ジオテキスタイルやジオメンブレンの性能確認試験や基礎研究も空間技術研究所の業務として取り組んでいます。



二軸引張試験機

4.おわりに

以上、簡単ではありますが私の職場を紹介させていただきました。

「“膜”にこだわり“膜”を越えて」というフレーズのもとで、弊社土木エンジニアリング事業部は人々のニーズに応える新しい価値の創造をめざしたいと考えております。

今後ともより一層のご指導、ご鞭撻を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

最後に「職場紹介」のページで弊社を取り上げていただきましたIGS日本支部編集委員会に深謝の意を表します。